

## 「ICT活用単元プランシート」作成のポイント

単元	第Ⅲ章 生物の体内環境 第Ⅰ節 体液とその働き			
使用教材				
単元目標	生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。			
単元計画	教科書ページ等	学習のねらい・学習内容	学習活動	端末の活用方法・活用場面
1	88～ 91	<b>学習のねらい</b> ◆ 脊椎動物の体液の種類を知り、特に血液の成分について理解する。 <b>学習内容</b> ◆ 体液の種類（血液・組織液・リンパ液）とその関係 ◆ 血液の成分とその働き	①外界の環境が変化した際に、脊椎動物の体にはどのような変化が起こるかを考え、体内環境を一定に保つためのしくみがあることを見いだす。 ②血液の成分についてまとめる。	(1)Formsでの事前家庭学習に取り組む（生徒端末） (2)AIテキストマイニングによる生徒の事前家庭学習の分析（教師端末） (3)授業にて取組データの提示（大型提示装置） (4)授業の中での調べ学習（生徒端末） (5)授業での対話の結果共有（生徒端末） (6)授業内での発表（生徒端末・大型提示装置） (7)事前家庭学習・授業の振り返り（生徒端末）
2	92～ 93	<b>学習のねらい</b> ◆ 血液による酸素運搬のしくみを理解する。 <b>学習内容</b> ◆ 酸素と二酸化炭素の運搬 ◆ 酸素解離曲線	①酸素解離曲線を読み取る。 ②胎児と母体やヤマと一般の哺乳類の酸素解離曲線を比較し、その違いの意味を考える。	(1)単元1の事後家庭学習（生徒端末） (2)AIテキストマイニングによる生徒の事前家庭学習の分析（教師端末） (3)事前家庭学習にて資料配付（生徒端末） (4)授業での対話の結果共有（生徒端末） (5)事前家庭学習・授業の振り返り（生徒端末）
3	94～ 95	<b>学習のねらい</b> ◆ 血液凝固のしくみにより失血を防ぎ、体液量を保つことを理解する。 <b>学習内容</b> ◆ 血液凝固のしくみ ◆ 凝固と繊維溶のバランス	①血液凝固不全で起こる病気、繊維溶不全で起こる病気にはどのようなものがあるか考える。	(1)単元2の事後家庭学習（生徒端末） (2)AIテキストマイニングによる生徒の事前家庭学習の分析（教師端末） (3)事前家庭学習にて資料配付（生徒端末） (4)フロチャート作成後の全体共有（生徒端末） (5)事前家庭学習・授業の振り返り（生徒端末）
		<b>①</b> <b>「学習のねらい」と「学習内容」について記述する。</b>	<b>②</b> <b>学習のねらいを達成するための「学習活動」を記述する。</b>	<b>③</b> <b>学習内容に合わせて、生徒の学びが深まるよう留意し「端末の活用方法・活用場面」を考える。</b>